



# ほっとほっとタイムズー第1号ー

2026.4.30

井荻小学校 特別支援教育校内委員会  
教育アドバイザー住谷陽子

R8年度がスタートしました。子どもたちはみんな一つ学年が上がり、それぞれの学年で頑張っています。

「2年生になったら・・・4年生になったら・・・頑張る！」と自ら話している子も何人もいます。子どもってすごいなあと思います。

先日「わかったつもり」について書いてある本に出会いました。「わからないと自覚している場合は知ろうとするけれど、わかったつもりの時は、自分ではわかったと思っているので、正しいことにたどり着けない」というようなことが書いてありました。

「わかる」ということについては、私も何度か考えたことがあります。私は「わかる」には、段階があると思っています。

ずっと以前の6年生の道德の時間、ある場面(たしかごまかしてうそをついた)の行動について「いいことわるいこと？」という質問については全員元気よく「わるいこと！」と答えたけれど、「なぜ？」と聞かれたら何も答えられなかったということがあって、びっくりした経験があります。知識としては知っている(わかっている)けれど、「なぜいけないのか」「そうするとその後どうなるのか」など深い理解はできていないということだと思っています。

では、善悪の知識があれば人間は行動できるのでしょうか。私は違うと思います。人間には感情があります。この感情が実は行動を大きく作用します。ですから、「正しい行動」をとるためには、「心からそうしようと思う」ことが必要なのです。そしてそのためには、頭でわかるだけでなく、経験を通し、なぜいけないのかを総合的に知ることが必要だと考えています。

先日、電車好きの3歳児の相手をしていた時のこと。力づくでおもちゃの電車の連結をはずそうとして連結部分が壊れてしまいました。すると何も言わないのに、次には自ら手を出さず、「はずして」と求めてきたのです。彼は経験を通して「力づくでやってはダメ」「できないときは助けを求める」ことを学んだのだと思います。

日常生活を見直したとき、大人はついつい言葉で子どもたちに教えようとしていないでしょうか。「ダメでしょ！」「何度言ったらわかるの！」「わかった！」という具合に。こういう言葉をかけられたとき、子どもは「はい」としか言いようがありません。でも、では「はい」といったからと言って本当にわかっているのでしょうか。私は、失敗も含め自ら体験し、その時の気持ちを大人と一緒に言語化しない限り本当にはわからないのではないかと考えています。

知識としての善悪は、3歳児くらいでおおよそ身に着けているように感じています。そこから数限りない経験を通して「わかる」深度を上げていくのが「成長」ではないでしょうか。本当にはわかっていないのですから、当然子どもはたくさん失敗をします。その時、口には出さないまでも、大多数の子が失敗した自分に落ち込んでいます。そのつらい気持ちに寄り添い、共感しながら、大人と一緒に「失敗したらどんな気持ちになるのか」「失敗しないためにはどうすればよかったのか」、失敗を繰り返さないために言語化することが大切なのだと思います。落ち込んでいる子どもを見ると、つい、大人が何とかできないかと思ってしまうのですが、子どもが自ら解決していくのを見守ることしかできないし、それこそが大事なのだと思っています。

今年もまた、暑い夏がやってきそうです。運動会の準備が始まり、ゴールデンウィークもあり、リズムのつかめない毎日が続きます。このところ寒暖の差が大きく、体調を崩す子も多く見られます。健康に気を付けながら、楽しいことも少々つらいこともたくさんたくさん経験して成長していったほしいですね。

いおぎ教室の入室準備も進めています。利用を少しでも考えていらっしゃる方は、できるだけ早く(5月上旬までには)担任に一声お声掛けください。

